

SPOD2023

「新時代に必要な英語のスキル を整理しよう！」

2401C ワーク中心

2023年8月24日(木)
10:00~12:00

<時間配分(目安)>

10:00~10:20 自己紹介&アイスブレイク

10:20~10:50 話題提供

10:50~11:35 グループ・ワーク

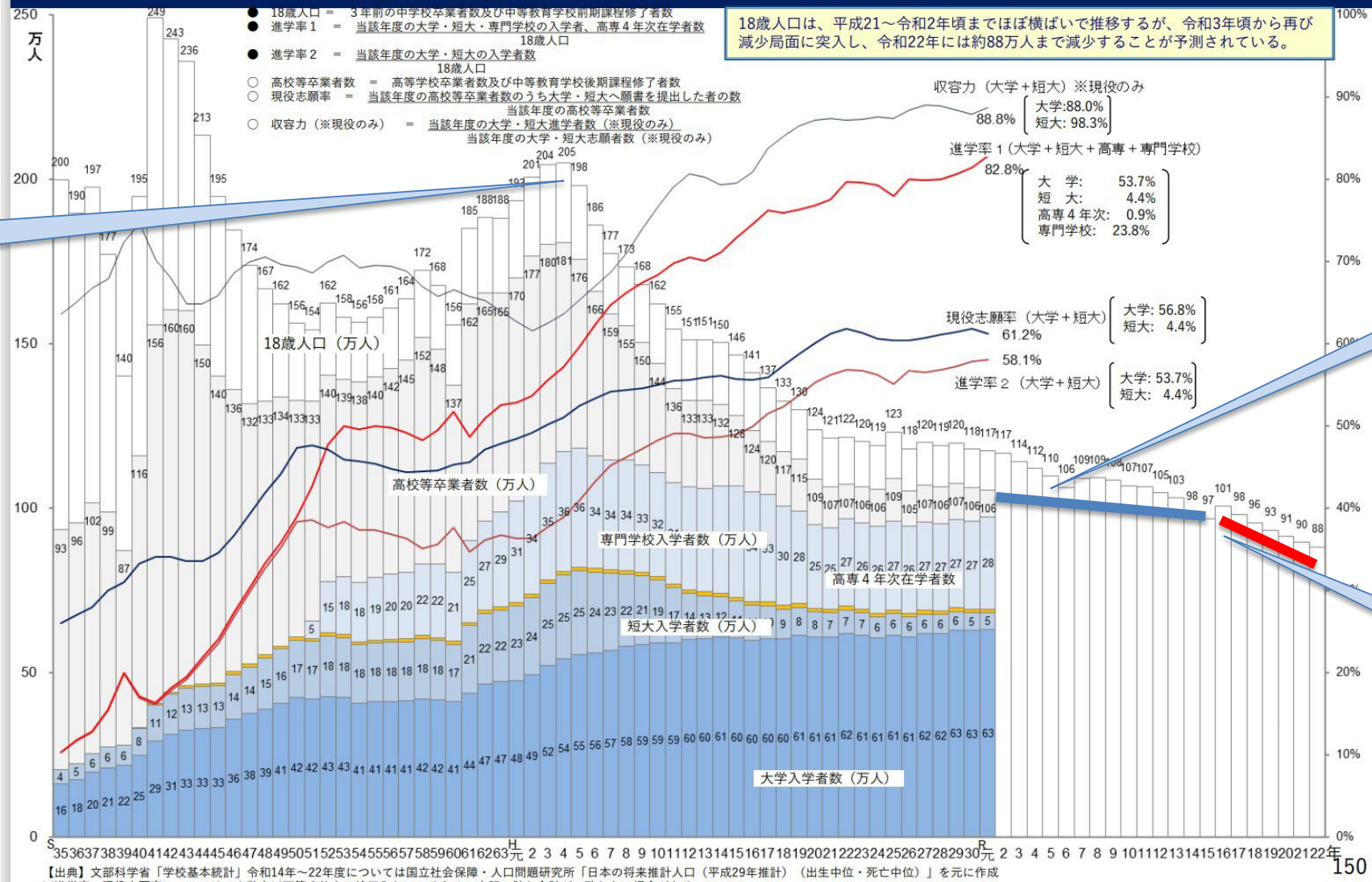
11:35~12:00 発表(6分×3グループ)

国立大学法人 愛媛大学
教育・学生支援機構 英語教育センター
博士(教育学)

中山 晃

話題提供①～⑨

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



Society 5.0 × デジタルトランスフォーメーション (DX)

超スマート社会 ➡ 「創造社会」 (Society 5.0)



情報社会 (Society 4.0)
工業社会 (Society 3.0)
農耕社会 (Society 2.0)
狩猟社会 (Society 1.0)



VR (同期) / オンライン (同期)

- ・海外在住の先生 (教員確保)
- ・遠隔地キャンパスの学生 (学生確保)
- ・(低コンテキスト文化) 欧米型の言語的な気遣いや構造化された会話パターンの習得

英語教育 「創造を支える言葉の教育」

E-learning (非同期)

- ・居住地は考慮する必要なし
- ・IRT (項目応答理論) を利用した学びの個別最適化
- ・AIを活用し、教授法と学習スタイルをマッチング



対面 (同期)

- ・現地在住の教員&学生
- ・細かな表情、感情の変化など非言語的なコミュニケーション能力の向上 (高コンテキスト文化)



Knowledge (知識)
Values (価値観)
Attitudes (態度)
Skills (技能)

- ・地域やグローバル社会、異文化的諸課題に対する探求・考察
- ・他者の視点や世界観の理解と承認(評価)
- ・異文化間における率直で、適切かつ効果的なかわりあい
- ・みんなにとっての幸福と持続可能な発展に寄与する行動
(多様な人々が、ともに成長するためにつながった集合体)

出典・引用 <https://www.oecd.org/pisa/innovation/global-competence/>

The OECD Learning Compass 2030



Knowledge (知識)
Skills (技能)
Values (価値観)
Attitudes (態度)

コンピテンシー: 4つの要素からなる軸

- ・新しい価値(観)の創造 (➡ Society 5.0 「創造社会: 地球の未来をともに切り開く」)
- ↓
- ・対立やジレンマへの対処 / 調整(力)
- ↓
- ・責任のある行動
- ↓
- ・変革をもたらす能力
(≠ 変化に対応する能力)

「予測を立てて行動し、省察する」 ➡ 繰り返し

予測が不可能な (VUCA) 時代だからと言って、あてずっぽうで行動するのは、適切な行為とは言えない。

何かが起こったら、とにかくいろいろなところと調整して、前に進まなくてはならない。

ただし、変化への対応能力だけでは、打開できない。

Creating new value (新しい価値の創造)



Social & Cultural Disequilibrium
(社会的・文化的不均衡)



Take responsibilities (責任のある行動) ➡ 調整力

Transformative competencies
(変化をもたらす能力)

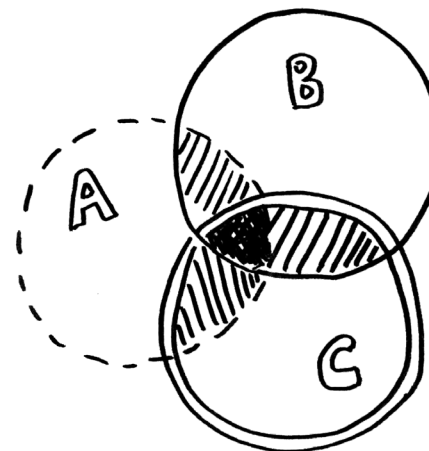
V (Volatility: 変動性)

U (Uncertainty: 不確実性)

C (Complexity: 複雑性)

A (Ambiguity: 曖昧性)

何が起こるかわからない (例: コロナ、自然災害、紛争等)
将来の予測が困難な状態



ハリウッドスターがストライキ!? (Movie Walker Press 7月21日11:30 配信)

ハリウッドスターやエキストラの画像・音声データを取り込み、動きの基本的な情報を保持することで、俳優に役をさせずとも、安価に映画を作ることができる。**AIデータが作成会社の所有物となり、そのストックも増えると、役者がいなくなる。**

➡ 役者（俳優&エキストラ）をAIにするのを禁止したい

【疑問】 英語教員も、その教員のAIデータが大学の所有物になると、いなくなる!?

実際に、**音読&読み上げサイト**の精度が高くなってきたので、スクリプトを用意して、アバターに発話させれば、特に**講義形式**の授業においては、（手書きの）記述式テストの採点以外の役割はなくなるかもしれない。

単なる**教科の知識の伝達**という授業なら対面授業の教員はAIにとって代わられる!

かつてのWeb翻訳 (お笑いネタも含んでいますので、必ずしもこのように翻訳を返していたわけではありません。)

翻訳するテキスト（日本語）

おれの顔が立たない

三両目で待ち合わせ

しらばっくれんな



英語

My face doesn't stand. ✕

Meeting at three both eyes ✕

Don't give me white teeth ✕

最近のWebツールによる翻訳

翻訳するテキスト（日本語）

（それだと）おれの顔が立たない

あの先生は、いつも面目を保とうとするよね。

三両目（三号車）で会いましょう。

しらばっくれんな。（知らないふりをするな。）



英語

That would not save my face. ○

I can't save my face. ○

The teacher always try to save his face. ○

See you at the third car / car number 3. ○

Don't pretend you don't know. ○

最近のWebツール翻訳とバックトランスレーションというブラッシュアップテクニック

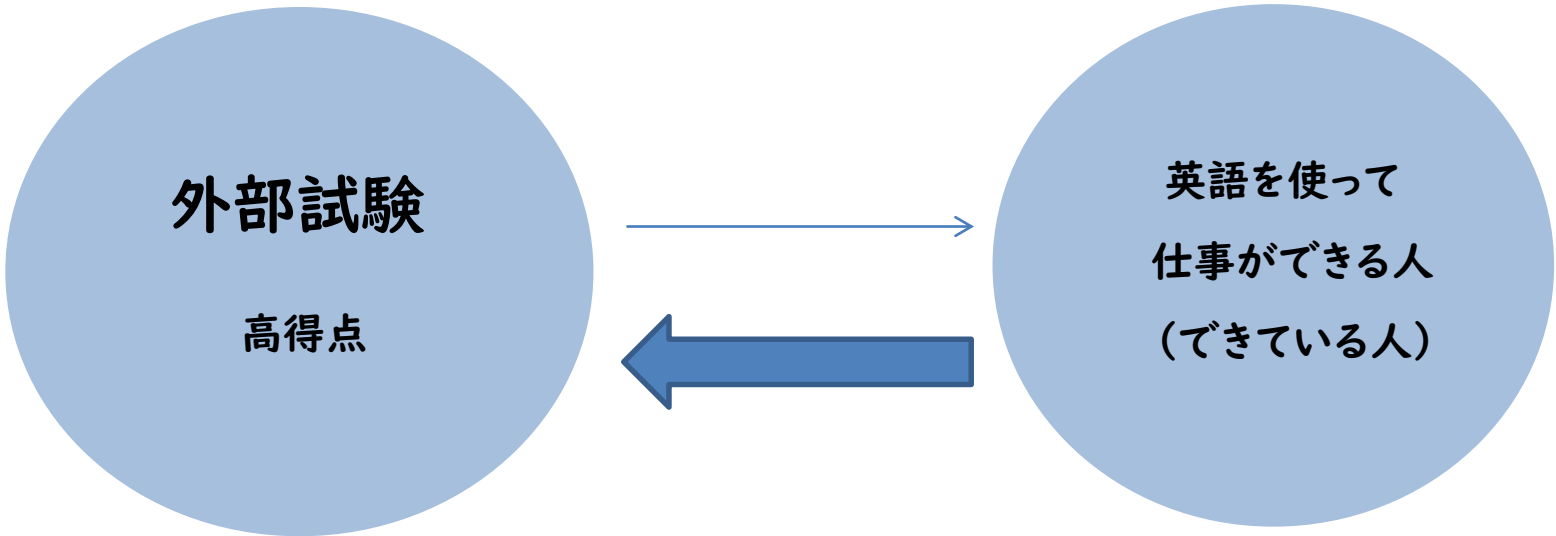
翻訳するテキスト（日本語）



英語

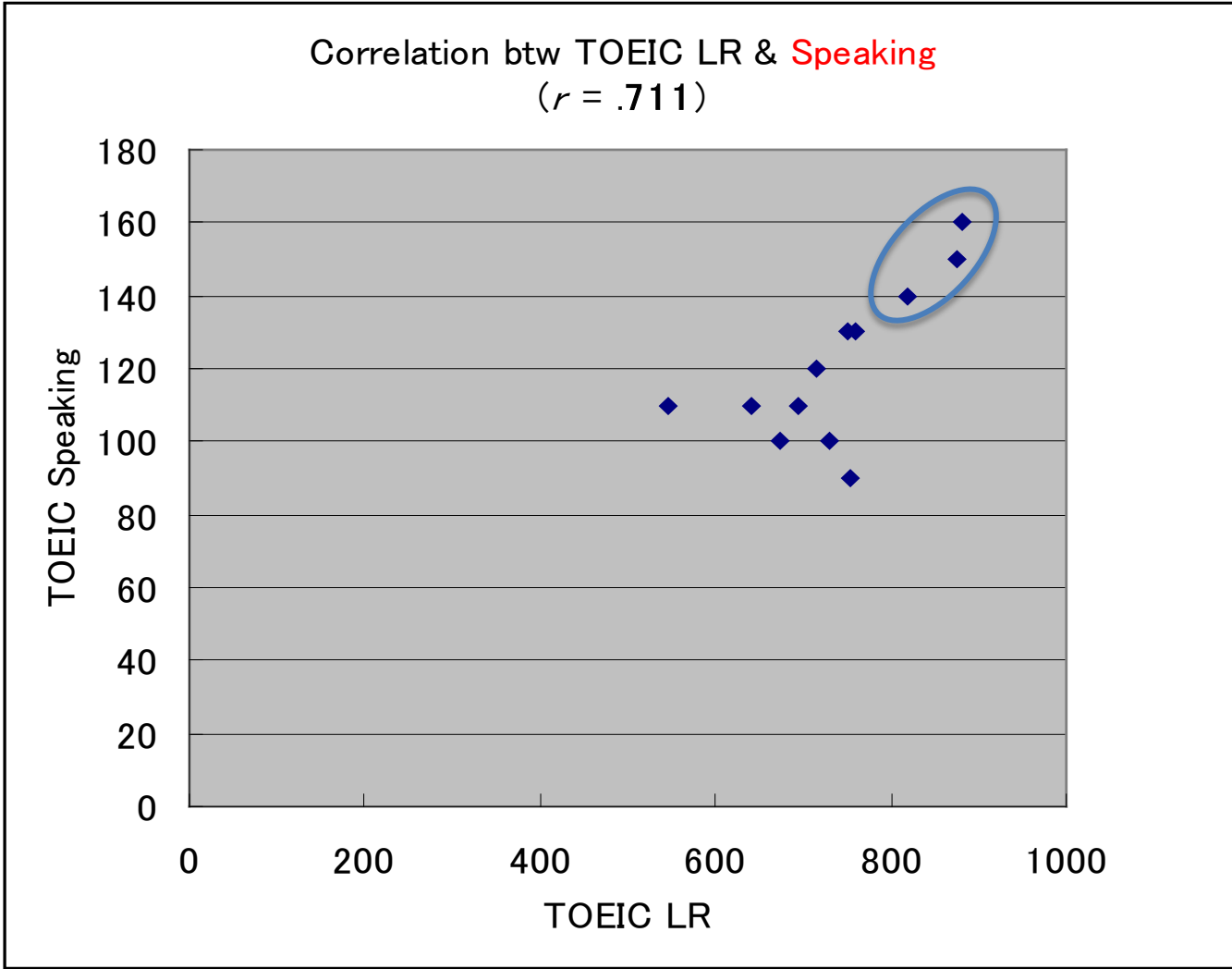
A large, empty rectangular box with a thin brown border, intended for inputting Japanese text to be translated.A large, empty rectangular box with a thin brown border, intended for inputting English text to be translated back to Japanese.

「試験に強い」スキル or 「仕事に使える」スキル



Test Taking Strategy
Test-Wiseness
テストには強いが、実践経験がないため、
英語を仕事で使うほどに達していない

検定試験などの英語能力試験を受けると
高得点をマークする可能性 (大)



TOEICのLRの総合点×スピーキング（相関）

【結果】
700点台から相関する群

LRは700点後半でも、スピーキングが100点以下の群

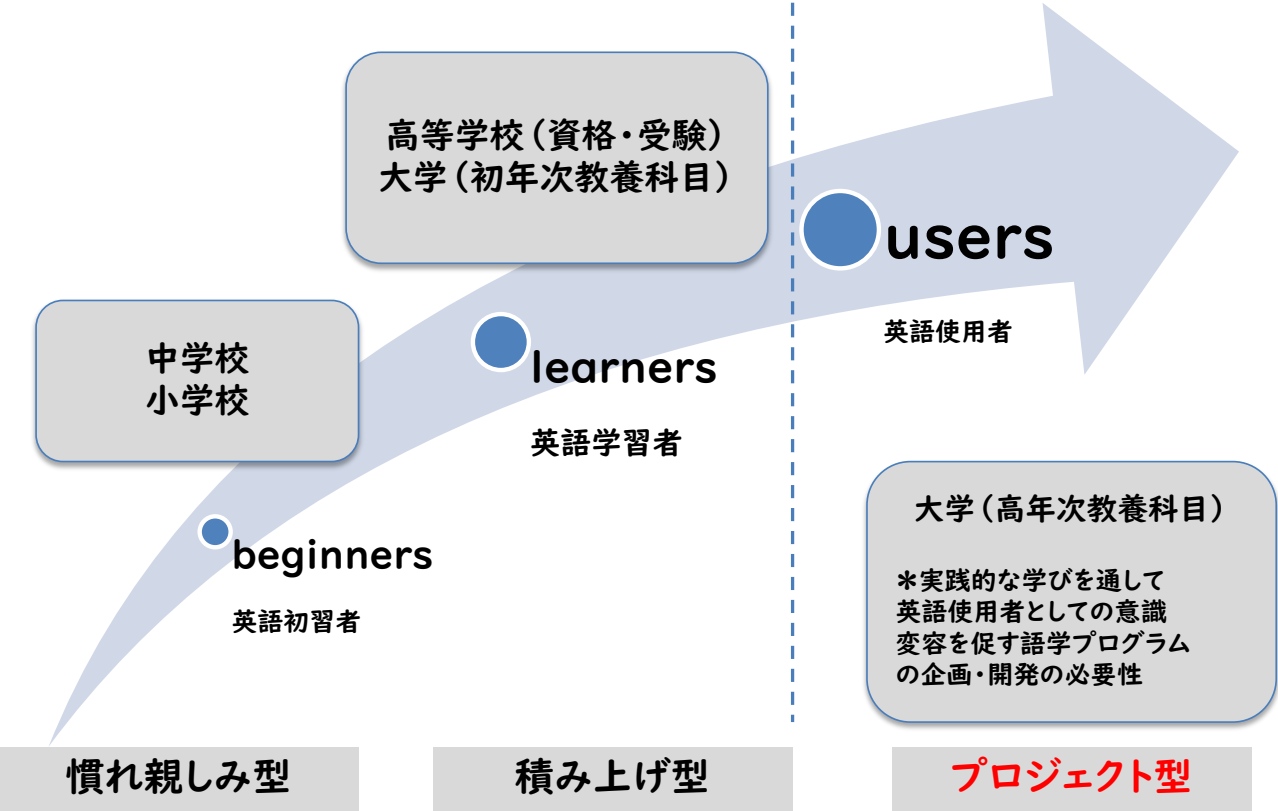
【考察】
個々に伸ばすべき技能は異なる。

外部試験結果は、どのような力を向上させる必要があるのか、その道筋を知るための手がかりとなる。

留学経験者やStudent Assistant 経験者のグループから考える英語教育プログラムとは、どのようなものか。

コースの概要はこちらから：
<http://web.eec.ehime-u.ac.jp/Pro/index.html>

連続体（スペクトラム）で考える英語学習の各ステージ



Japanese **Users** of English
↑
Japanese **Learners** of English



「英語S3（地域観光英語）」（2単位）

愛媛大学と松山大学の連携により**共同開設の科目を創設**することで、
高度な英語運用能力を持って、地域で活躍できる人材の育成を図る！



視点① ⇒ 高度な英語運用能力を持ち、地域の観光資源の解説と発信を担う、**学生ボランティア観光ガイドの育成**

視点② ⇒ 英語を使ったプロジェクトに対する**両大学生の高いニーズに対応**
(平成28年度愛媛大学・松山大学地域活性化連携事業にて、募集定員10名の枠に約60名が応募)

視点③ ⇒ 愛媛大学と松山大学の**連携強化の促進**
(互換可能科目の増加とスムーズな単位認定)

ステージⅠ 愛媛県、特に中予地域の観光資源の現状と課題を知る**（講義）**
オムニバス形式として、各分野における専門家等（地元自治体等からの協力）のゲストスピーカーを招聘し、地域観光資源についての学生の理解を促す。

ステージⅡ 観光英語に関する知識の習得と英語表現運用能力の向上**（演習）**
主に愛媛大学・松山大学の教員が担当し、学生の観光英語の運用能力の向上を図り、高度な英語運用能力を有した人材の育成をめざす。(H28年度実績)

ステージⅢ 英語による観光ガイド実践**（課題解決型実践）**
自治体や松山観光コンベンション協会等の協力を得て、国際学会をはじめとする海外からの参加者（外国人）が多数見込まれる会合に、本授業の趣旨を周知、実践的フィールドの提供を図る。



【3つの特徴】

各ステージでの両大学生同士のコラボレーション（学び）を踏まえ、次のようなことが可能となります。

特徴① ⇒ 愛媛県、特に**中予地区の地域観光資源の現状と課題**を、詳しく**理解し、観光ガイドの実践に生かすことができるようになります。**

特徴② ⇒ 観光ガイドに必要な**高度な英語運用能力**を身につけることができます。

特徴③ ⇒ 実践的な場で、課題解決型の実習を行い、「**地域観光英語**」の単位を取得すると同時に、「**学生ボランティア観光ガイド（英語）**」（仮称）の名称が付与され、**地域のボランティアガイドとして活躍**できるようになります！

- ① 少子化(現実)
- ② Society5.0 & DX(授業方法の再考)
- ③ グローバルコンピテンス
- ④ ラーニングコンパス & Well-being 2030(世界が目指す教育)
- ⑤ 教員のAIデータ(危機感)
- ⑥ Webツール(お笑い要素あり)
- ⑦ 英語のスキル(どのようなスキルが相関するのか)
- ⑧ 英語プロフェッショナル養成コース(特色)
- ⑨ 英語使用者としての意識の転換(他大学とのコラボ・プロジェクト)

グループワーク

グループワーク

到達目標

1. 大学教職員や大学生に求められる「語学力」がどのようなものになるか、現在の知見をもとに説明することができる。

2. 大学教職員や大学生に求められる「語学力」を涵養するための授業案（簡易版シラバス）をデザインすることができる。

作業内容

到達目標の2において、簡易版のシラバスを作成することを念頭に、**授業のキーワード**や**目的**、**到達目標**（身につけさせたいスキル）、さらには、そのスキルを**どのように**（どのような授業スケジュールで）**育成**していくのか、話し合ってそれぞれまとめましょう。

2. テンプレートに授業案（簡易版シラバス）を作成しましょう。ワークショップの最後に発表してもらいます。

発表は、代表者1名がグループメンバー全員の簡易版シラバスを簡潔に紹介し、かつ、**グループ内**で決めた**「もっとも特色あるシラバス」**を1つ少しだけ時間をかけて丁寧に会場全体に報告する形とします。（制限時間 **6分間**）

未来を切り拓く力

新時代に必要な
英語のスキル

グループワーク用ワークシート

<授業・研修科目名 または キーワード>

例 基礎英作文 (Basic Writing Skills in English)

<目的 / Course Description>

例 The purpose of this course is that students understand the different aspects of writing skills in English.

<到達目標 / Course Objectives>

例

Students **can** write a sentence based on a picture.

Students **can** respond to a written request.

Students **can** write an opinion essay.

<授業スケジュール:時間があれば>

例

Lesson 1 Course Orientation & Guidance

Lesson 2 Review the skills learned in the prerequisite courses.

...

<評価・測定方法:時間があれば>

例

TOEIC-SWの Writingパートの結果 (80%)

Opinion Essay の出来具合 (20%) :ルーブリックによる評価

<授業・研修科目名 または キーワード>

<目的>

<到達目標>

オプション<授業スケジュール>&<評価・測定方法> & 特色